格付変遷行列と倒産確率 （2013年9月 ～ 2014年9月）

[資料の見方]

（1）対象データ

当社保有の企業データのうち、2013年9月時点でA～F格付が付与され、かつ、生存していた1,321,328社を集計の対象としています。

（2）集計方法

上記対象企業データについて、12ヵ月経過後の 2014年9月時点までの 格付遷移、および12ヵ月間の生存確率、倒産確率を集計し、マトリクス形式にまとめました。

縦軸①は、2013/9 集計開始時点の生存企業に付与されていたA～Fの格付を表しております。
上段の横軸②は、 2013/9 時点における生存企業の12ヵ月経過後の格付を表示しており、格付毎の遷移が分かるよう表示しております。
下段の横軸には、上段の表を再集計し、格上げ／格下げ／同格付維持の格付変動を表示しております。
また、2014/9までの 12ヵ月間に倒産した企業について集計し、格付・倒産形態ごとに表示しています。

[資料のポイント]

RM格付は、企業データの更新時、特殊情報の入手時、審査ロジックの修正時に見直しが行われ、その時点における企業の信用力に応じて格上げ、維持、または格下げが実施されます。

格付変遷行列は、現在の格付が12ヵ月経過後にどれぐらい変化する可能性があるのか、倒産する可能性があるのかについて、過去の格付を用いて確率で表したものです。

格付変遷行列から格付の変動について見ると、格下げの割合が18.7%と格上げの割合15.2%を上回っています。内訳を見ると、E格からF格への格下げ件数が10万件に達しており、格付変化の中では最も多い推移となっています。倒産件数自体は減少基調であるものの、より警戒をすべき企業が大幅に増加した結果といえます。

B格～E格のミドルレンジでは、格付の変動が大きく、同じ格付に留まらずに概ね半数近くが12ヵ月間に異なる格付に遷移しています。業績の変化によって信用力が変化しやすく、取引先を継続して管理する重要性が高いとが分かります。

A格およびF格では現状の格付を維持している企業の割合が高くなっている点から、環境が厳しい中で信